

科技高 いきもの記

Vol.31 2021.7.2

佐藤龍平

校舎を利用して巣作り

スズメの子育て



校舎の壁面を利用して巣を作ったスズメ（中庭）

巣の中には計3匹のヒナ（写っているのは2匹）が親鳥の帰りを待つ。親鳥は一日中ヒナのためにエサを運んでいた。



↑スズメが巣を作った場所

1年3組の前の談話コーナーの窓の外（3階）。近くを通るとチュンチュンとヒナが鳴く声が聞こえてくる。親鳥がエサをくわえて帰ってくると、ヒナたちがより一層大きな声で鳴く。

科技高の校舎付近には毎年スズメが巣を作っているんだけど知ってた？今年**3階の中庭側の窓の外に巣を作っている**のを見つけた。三分野のF先生に「あそこに巣がありますね。」と教えたら、「よく気づきますね！」と驚かれた。なんで気づいたかという、鳴き声が聞こえるからだ。**中庭にいれば、チュンチュンと結構な音量でヒナが鳴く声が聞こえてくる**。登下校の時や廊下を通る時、自販機の前にいる時、などには絶対に聞こえているはずなのだが、気にも留めていない人の方が多いだろう。特に1年3組の生徒は、目の前に巣があるのでかなりうるさいと思う。

人間とは面白いもので、意識して聞こうとしなければ周囲の音は案外脳に響いてこない。逆に、一度聞こえてくるとすぐく気になってきて（私だけ？）、色々な気づきが生まれる。今年気づいたのは、同じ巣で二度ヒナを育てていることだ。（5/19と6/28に確認。同一の親鳥かは不明。）

スズメ（英語でSparrow）は、「ザ・普通の鳥」という感じで、とても身近な存在なのだが、意外と子育ての様子を見る機会は少ない。是非、登下校の時などには耳を澄ませて、上を見上げてみてほしい。（窓から身を乗り出して覗き込むのは危険なので絶対にやめましょう。）



スズメのヒナ



ヒナにエサを与える親鳥

独り立ちのために巣から出たヒナ（校庭のランニングロード）

ヒナが校庭のクスノキの樹上にある巣から落ちてしまったようだ。しかし、これは巣立ちのために必要な過程で、決して人が手を出してはいけない。この期間にヒナはエサの取り方や飛び方を学ぶ。巣から落ちたヒナの近くには親鳥がいて、エサを運んでいた。ちゃんとヒナのことを見守っているのだ。

ヒナはのどが白く、くちばしが黄色い

親鳥はのどの部分が黒いのにヒナは白い。ヨーロッパにいるイエスズメの場合は、のどの黒さが群れの中での強さに関係しているという研究があるそうだが、日本のスズメはのどの黒さの生態的な意義は分かっていないようだ。

また、ヒナは親鳥と違ってクチバシが黄色い。これは暗い巣の中で餌をもらいやすいように目立たせる効果があるようだ。

スズメのことを調べていて驚いたのだが、スズメは親鳥も秋になるとクチバシの根元が黄色くなるのだそう。性的なアピールのため？と言われていた。スズメのクチバシの季節変化、みなさん知ってた？こんなに身近な鳥なのに、全然よく見ていなかったなあ。